

旧約聖書の比喩的解釈 ... 予型と原型

旧約聖書の歴史的事柄の中に、比喩や象徴として新約時代のキリストや救いの約束を見出す解釈法を比喩的解釈、または象徴的解釈という。

- ・ 予型(雛形)...後に起きる新約時代の事柄が象徴的に表された旧約聖書の歴史的な事柄。
- ・ 原型(型) ...実際に現されたキリストや神の救いに関する新約の事柄、事実。

例)イエス・キリストによる比喩的解釈 ヨハネ 3:14 ~ 15

「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

予型...イスラエルの民が毒蛇にかまれた時、モーセは青銅の蛇を掲げ、それを見上げた者は救われた。
 原型...イエス・キリストも救いのために、十字架の上に釘付けにされなくてはならない。

しかし、過度な比喩的解釈は危険でもある。大切なのは、原型であって、隠されている象徴を探り当てていくことではない。当時は旧約聖書しかなく、旧約聖書から全てを説き明かさなければならなかったが、すでに新約聖書がある以上、原型から解釈するのが望ましい。真理はキリストによって明らかにされたのである。

パウロによる比喩的解釈 「アブラハムの二人の子」 ガラテヤ 4:21 ~ 30

| | 予型 | イシュマエル | イサク |
|-------|----|---|---|
| ふたりの子 | 予型 | | |
| | 原型 | 律法主義者 (行ないによる救い) | 福音 (信仰による救い) |
| 身分 | 予型 | 女奴隷の子ども、奴隷となる子 | 約束の子ども 自由の女の子ども |
| | 原型 | 律法主義は、律法の奴隷と化す | 福音は約束による、自由な身分 |
| 母 | 予型 | 女奴隷ハガルの出身は、アラビヤ。 | サラは、正妻 = 自由の女 |
| | 原型 | 律法の生まれはシナイ山。 今では、エルサレムが律法の中心地。神殿。 | 上なるエルサレム。 ユダヤ人もギリシア人もない 約束と信仰によるキリストの体なる教会。 |
| 手段 | 予型 | 肉 = 人間的な知恵・努力によって生まれた。 | 約束によって御霊によって生まれた。 サラは不妊の女。人間的に不可能。神の力による。 |
| | 原型 | 律法主義は、人間の行ない努力によって、 神の子となるうとする | 福音は、約束による。信仰のゆえに、神の力によって。 |
| 結論 1 | 予型 | 肉によって生まれた者(イシュマエル)が、御霊によって生まれた者(イサク)を迫害した | |
| | 原型 | 自分の力によって救われようとする律法主義者も、神の力によって救われたクリスチャンを迫害する | |
| 結論 2 | 予型 | しかし、正妻サラの怒りにより、奴隷の女とその子どもは、追い出されてしまう。 | |
| | 原型 | 律法主義の奴隷のままでは、やがて追放される。 | 相続を受けるのは、約束の子。 |

アブラムへの約束 創世記 15:1～

これらの出来事の後、主のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。

「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。…あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」

肉によって生まれた = 人間的な知恵・努力によって 創世記 16:1～4

アブラムの妻サライは、彼に子どもを産まなかった。彼女にはエジプト人の女奴隷がいて、その名をハガルといった。

サライはアブラムに言った。「ご存じのように、主は私が子どもを産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにおはいきください。たぶん彼女によって、私は子どもの母になれるでしょう。」

アブラムはサライの言うことを聞き入れた。…彼はハガルのところにはいった。そして彼女はみごもった。彼女は自分みごもったのを知って、自分の女主人を見下げるようになった。

しかし、約束の子はイサク 創世記 17:15～21

アブラムはひれ伏し、そして笑ったが、心の中で言った。「百歳の者に子どもが生まれようか。サラにしても、九十歳の女が子を産むことができようか。」

…すると神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。…来年の今ごろサラがあなたに産むイサクと、わたしの契約を立てる。」

結果、奴隷の子は追い出されてしまうことに… 創世記 21:9～13

そのとき、サラは、エジプトの女ハガルがアブラムに産んだ子が、自分の子イサクをからかっているのを見た。

それでアブラムに言った。「このはしためを、その子といっしょに追い出してください。このはしための子は、私の子イサクといっしょに跡取りになるべきではありません。」

このことは、自分の子に関することなので、アブラムは、非常に悩んだ。

すると、神はアブラムに仰せられた。

「その少年と、あなたのはしためのことで、悩んではならない。サラがあなたに言うことはみな、言うとおりに聞き入れなさい。イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるからだ。

しかし、はしための子も、わたしは一つの国民としよう。彼もあなたの子だから。」

女奴隷ハガルとイシュマエルのごときは、自分の努力によって、道を切り開こうとした結果が産んだ悲劇であった。奴隷の子は奴隷。結局、身分の壁を越えることはできなかった。

パウロは律法主義と対決するため、この箇所を奴隷や自由の身分という一つの側面のみを取り上げ強調しているが、奴隷の身分が卑下されているわけではない。神はイシュマエルに祝福を与えている。

実は、パウロこそ、もともと律法主義者の一人、律法の奴隷であった。

教会の迫害者サウロから、キリストの使徒パウロへ。

イシュマエルとイサクの予型は、まさにパウロ自身のことであった。

キリストこそ、律法による奴隷から福音による自由への橋渡し、5:1の宣言へと続くのである。

ガラテヤ 5:1 キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。